

東北大学附属図書館における 東日本大震災後の資料収集と活動について

真籠元子・永澤恵美・影山啓太

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から2021年で10年を迎える。震災後、主な被災県である岩手・宮城・福島県の3県では県立図書館や大学図書館などが震災資料の収集・保存・公開を行っている。東北大学附属図書館（以下、「当館」という）でも震災から4か月後の2011年7月より正式に関係資料・出版物の収集を開始し、本館内に「震災ライブラリー」を設けている。本稿では、震災から10年を迎えようとしている今、当館における震災関連資料の収集と公開の取り組み、他館との連携について述べる。

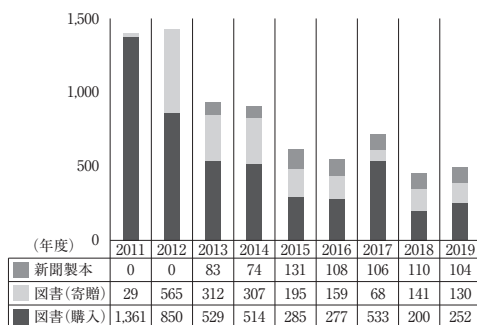


▲写真 震災ライブラリー

2. 震災ライブラリー

1) 概要

当館の震災ライブラリーは、冊子体の図書・雑誌資料については震災直後の2011年7月より収集を始め、2020年10月末現在で図書4,829冊（和書4,658冊、洋書171冊）、雑誌1,844冊（和書1,834冊、洋書10冊）となっている。収集対象は、市販の図書のほか各機関からの寄贈による資料、2011年3月以降に発行された新聞等で、購入と寄贈の割合は7：3である。



▲図1 受入区分別統計（2020年3月末現在）

新聞は当初、全国紙を含む13紙を原紙のまま製本することとしたが、関連記事の減少により現在も製本を継続しているものは7紙となっている。

また、この資料群は当館の他の図書と同じように国立国会図書館分類を使用し開架スペースに配架しているが、震災記録の保存を目的としているため利用は館内閲覧のみとしている。

2) 現状

収集開始当初より、専任担当者の配置および収集に係る予算は特に無く、通常業務における選定担当者が選定を行い、経常資料費の中で収集を行っている。震災直後は年間1,400冊受け入れていたが、その後徐々に減少し、現在は500冊と当初の

表1 分類別資料冊数（2020年3月末現在）

分類	冊数
A (政治・法律・行政)	216
D (経済・産業)	894
E (社会・労働)	2,017
F (教育)	292
G (歴史・地理)	309
H (哲学・宗教)	83
K (芸術・言語・文学)	439
M (科学技術)	190
N (科学技術：原子力工学など)	169
P (科学技術：化学・化学工学など)	4
R (科学技術：農林水産学など)	78
S (科学技術：医学など)	191
U (学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌)	124

3分の1程度となっている。震災から時間が経つことによる出版数の減少に加えて、当館の購入予算の減少も要因である。

また、表1にある通り、収集対象は全分野にわたっており、災害・災害救助を含むE（社会・労働）分野が多いことは当然であるが、震災当時やその後の状況を詩句として詠った詩集・句集や絵本等を含むK（芸術・言語・文学）が多いことも特徴的である。

3) 課題

当館の方針として、震災関連資料は網羅的に収集するとしているが、図書購入予算が年々減少する中で、対象となる資料を継続的に収集し充実させることは、今後難しい状況になるであろう。また、収集した資料は、館内利用者であれば誰でも閲覧できる状況にあるが、個々の利用だけでなく授業やサークル活動等でも利活用できるよう、より一層の広報が必要であると考えます。

3. 震災ライブラリー オンライン版

1) 概要

震災ライブラリーの収集資料のうち、電子公開許諾を得たものは、「震災ライブラリー オンライン版」¹⁾としてデータベース化し、2012年3月よりウェブで公開している。収録対象は、震災ライブラリー所蔵資料のうち冊子体図書・雑誌を除く資料群（チラシ、パンフレット、ミニコミ紙、広報誌、写真等）および、東日本大震災に関する学術文献である。

2020年10月末現在、登録件数は4,522件となり、分類別件数は表2の通りである。うち本

表2 分類別データ件数（2020年10月末現在）

分類	件数
00 総論	38
10 法律・行政	396
20 産業・経済	261
30 市民生活・社会福祉・医療	850
40 支援活動・ボランティア	738
50 教育・学習・学術的研究	1,088
60 芸術・歴史・思想	404
70 食料・農水産業	71
80 エネルギー	175
90 防災	158
写真	343

文や画像が閲覧可能なものは1,780点となっている。また2019年度には、国立国会図書館の「ひなぎく」²⁾、PRRLA（環太平洋研究図書館連合）運営のPacific Rim Library³⁾とのシステム連携が実現し、収集資料の活用機会が広がっている。

2) 収集体制

本データベース収録対象資料の収集については、学内外の機関等から寄贈があるほか、当館からの寄贈依頼や担当者の自発的な収集による方法が取られている。学術文献については、論文情報データベース等から取得した情報をもとに、著作権者へ個別に収録許諾依頼を行っている。電子公開の許諾を得られない場合は、代替として掲載資料の冊子体寄贈を依頼し収集に努めている。

3) 課題

主担当者1名（他の業務との兼務）の裁量に委ねられている部分が多く、昨今のコロナ禍の影響もあり恒常的な資料収集や作業が困難となっている。学術文献収集についても、情報検索や許諾確認に時間を要し登録が長期間進まない状況が生じている。

収集資料数や利用者からの問い合わせも年々減少傾向にあり、震災資料の維持管理と利活用を今後どのように図っていくかが大きな課題である。

4. 広報と連携

1) 「震災記録を図書館に」キャンペーン

東日本大震災後には、被災地の図書館を中心に、震災に関する資料の収集が始まった。これは阪神・淡路大震災に際し、神戸大学附属図書館を始めとして行われた資料収集の取り組みに大きな影響を受けたものである。東日本大震災のような被災範囲の広い災害では、収集対象となる資料群が多く、単一の図書館では十分な資料を集めることは難しく、図書館間での協力が必要と考えた。ま



▲図2 震災ライブラリー オンライン版

た、図書館だけではなく、広く一般の方にも図書館における震災関連資料の収集・公開の重要性を知っていただくことが、より充実した資料の収集につながると考え、2012年3月より「震災資料を図書館に」と題したキャンペーンを実施している。このキャンペーンは、岩手県立図書館、宮城県図書館、福島県立図書館、仙台市民図書館、岩手大学図書館、東北大学附属図書館、福島大学附属図書館の7館、および神戸大学附属図書館が呼びかけ団体となり、ポスターの配布、雑誌への広告の掲載、ウェブサイトの作成などを通して、震災資料の収集・公開の活動を広報するとともに、震災資料の寄贈を広く一般にお願いしている。なおキャンペーンの詳細はウェブサイト「震災記録を図書館に」⁴⁾で紹介している。

2) 東日本大震災ワークショップ

キャンペーンの呼びかけ団体を中心としたもう一つの活動として、震災資料収集・公開に取り組む図書館等の担当者が情報交換を行う「東日本大震災アーカイブワークショップ」を開催している。2012年1月に第1回が開催され2020年12月で第13回を数えた。2021年1月現在の参加館は、前述の岩手・宮城・福島の7館のほか、賛同・協力機関である国立国会図書館、防災科学技術研究所自然災害情報室、防災専門図書館の計10館である。ワークショップは年に一度、当館を会場として開催され、表3の項目について各館から情報提供し、互いに情報交換や質疑応答を行っている。

表3 ワークショップでの報告項目

① 収集済み資料の状況
② 収集範囲の特徴
③ 市販資料以外の収集方法
④ 収集体制
⑤ 収集上工夫している点
⑥ 収集上の課題
⑦ 一般公開の有無
⑧ デジタル化の実施計画
⑨ 震災関連資料のデータベース化の際の使用項目
⑩ 震災関連資料の分類方法
⑪ その他、前回以降の特記事項

近年のワークショップでは、収集対象の減少・予算措置などの課題が挙げられることが増えている一方で、資料の利用促進・積極的な広報活動などの報告も多くみられる。集合開催以外にメーリングリストによる情報交換も行っており、震災10年の節目として共同展示の企画をするなど、以前に増して活発に活動を行っている。

5. おわりに

東日本大震災以降も、残念ながら日本各地ではさまざまな災害が発生し、そのたびに大きな被害を受けてきた。災害の規模が大きければ大きいほど多くの自治体が混乱し、発生当時の記録が失われる可能性がある。また被災範囲が広いほどその記録も膨大なものとなり、全ての収集は困難となる。アーカイブの目的は資料の収集・保存・公開を通じて、多くの人々が災害に関する知識を学び、研究者がデータを活用できるようになり、それらが次の被害の軽減につながることである。当館や連携機関の活動が少しでも役立てれば幸いである。

注

- 1) 東北大学附属図書館 震災ライブラリー オンライン版
https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398shinsai
- 2) ひなぎく：国立国会図書館東日本大震災アーカイブ
<https://kn.ndl.go.jp/>
- 3) Pacific Rim Library
<https://prl.library.ucla.edu/explore-collections>
- 4) 「震災記録を図書館に」ウェブサイト
<http://www.library.tohoku.ac.jp/shinsaikiroku/>

参考文献

- 永井伸. 東北大学附属図書館における震災関連資料の収集・公開の取り組みについて. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2. 2014, p.59-63. <http://hdl.handle.net/10097/56667>
- 永井伸. 図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」呼びかけ団体における東日本大震災関連資料収集の現状と課題：震災の経験を活かすために. カレントアウェアネス. 319, 2014, p.11-13. <https://current.ndl.go.jp/ca1815>
- 小林真理絵. [東北大学附属図書館震災ライブラリー] 図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」で震災資料を収集・公開：より活用し、日常とつなぐために. 労働の科学. 74(8), 2019, p.484-487.
- (まごめ もとこ, ながさわ えみ, かげやま けいた : 東北大学附属図書館)

[NDC : 017.7

BSH : 1. 東日本大震災 2. 東北大学附属図書館]